

群 教 セ	G09 - 03
	平 17.230集

# ホームステイに役立つ事前学習 のためのマルチメディア資料集の作成

－ 姉妹校交流プログラムによる異文化理解に向けて －

特別研修員 時田 佳津枝 （群馬県立前橋西高等学校）

## （研究の概要）

本研究は、「姉妹校交流プログラム」でのホームステイに役立つ事前学習において、異文化理解につながるマルチメディア資料集を作成した。この資料集を英語科「オーラル・コミュニケーション」、「異文化理解（学校設定科目）」の授業で活用することにより、本校の「姉妹校交流プログラム」に積極的に参加しようとする意欲が向上し、異文化理解が深まることを検証した。

**キーワード** 【英語 - 高 ホームステイ 異文化理解 姉妹校交流 Web形式】

## 主題設定の理由

国際化や情報化が一層進展する中で、これからの国際社会に生きる日本人として、世界の人々と協調し、国際交流などを積極的に行っていくような資質・能力の基礎を身に付けることが必要である。具体的には、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と、視野を広げ、異文化を理解し尊重する態度が求められている。

高等学校学習指導要領における「外国語」の目標は、外国語を理解し、外国語で表現する能力を養い、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、言語や文化に対する関心を高め、国際理解を深める、となっている。これらの中核をなすのが、「実践的コミュニケーション能力」である。これは英語を学習した結果として獲得すべき力であり、学び続ける意欲を喚起し、国際化の進展した現代において生きて働く力である。したがって、英語における「基礎・基本」はこの「実践的コミュニケーション能力」であるということもできる。

本校では、アメリカ合衆国ウィスコンシン州(以下W.I.とする)フランクリン高校との姉妹校交流プログラムを実施している。このプログラムは、「国際科」設立にあたり、カリキュラムに国際的色彩を取り入れる意味で開始された。現地の家庭にホームステイをすることにより高校生同士、また家族の交流を深め、お互いの文化や生活習慣、言語を学び、国際社会についての視野を広げるこ

とを目的としている。派遣団は3月末から4月初めにかけて訪問し、受け入れは6月半ばから夏休みの間に行っている。参加した生徒からは、「異文化に接して大いに視野が広がった」という感想が多い。しかし、生徒の実態としては、日頃異文化に触れる機会はほとんどなく、コミュニケーションに必要な異文化や習慣への理解がないためにトラブルを起こしたり、いろいろな交流の場面で十分な意思の疎通が図れないなどといった状況が見られた。そのため、生徒自身が自分の考えを持ったり、相手と自分の考えの違いに気がついたり、相手の良さを認めながら広い視野で物事を判断できる力、すなわち異文化を理解しコミュニケーション能力を上げていくことが必要であると感じた。

そこで、本研究では、ホームステイの事前学習として、コンピュータによる動画・静止画・音声などの多様なメディアを使った資料集を作成し活用する。この実践によって、生徒は姉妹校交流プログラムに意欲を示し、積極的に楽しく学習しながら異文化についての理解が高まるのではないかと考え、本主題を設定した。

## 研究のねらい

ホームステイの事前学習において、異文化理解につながる資料集を作成し、授業実践を通して、その有効性を検証する。

## 研究の見通し

ホームステイの事前学習で、異文化理解につながるような動画や静止画を集めてWeb形式でまとめれば、生徒は姉妹校交流プログラムに対する興味・関心を高め、意欲を持って取り組むだろう。また、日本とアメリカ合衆国の文化を比較させることで、異文化の理解が深まるであろう。

## 研究の内容

### 1 教材の概要

#### (1) 基本的な考え方

本資料集は、本校の姉妹校であるアメリカ合衆国フランクリン高校生と積極的にコミュニケーションを図り、姉妹校交流を行えるよう支援することを目的とする。全体としては、次のような観点に基づいて教材を作成する。

#### ア 興味・関心を高める工夫

本資料集では、アメリカ合衆国の生活習慣を多面的にとらえられるように、フランクリン高校滞在中に撮影した画像やG-TaK(群馬県総合教育センター楽しい授業づくり教材コンテンツ集)などから、多くの静止画を収集し提示できるようにする。中でも生徒が興味・関心を持っている「学校生活」「シカゴ・ニューヨーク観光」「ホストファミリーとの交流」に重点を置く。

### イ 異文化を比較する工夫

姉妹校交流に際しては、相手国の文化や習慣等、相手の背景にあるものを理解していることが前提となるため、アメリカ合衆国の文化、習慣等を紹介するページを設ける。また姉妹校交流を進める上で、自国の文化、習慣についての理解を深めることも大切になるので、それに対比できるような日本の文化、習慣を紹介するページも設ける。日本の文化紹介のページでは、英語版と日本語版のそれぞれの間を行き来できるようなリンクを設定し、生徒が調べるときに短時間で目的の資料に到達できるようにする。

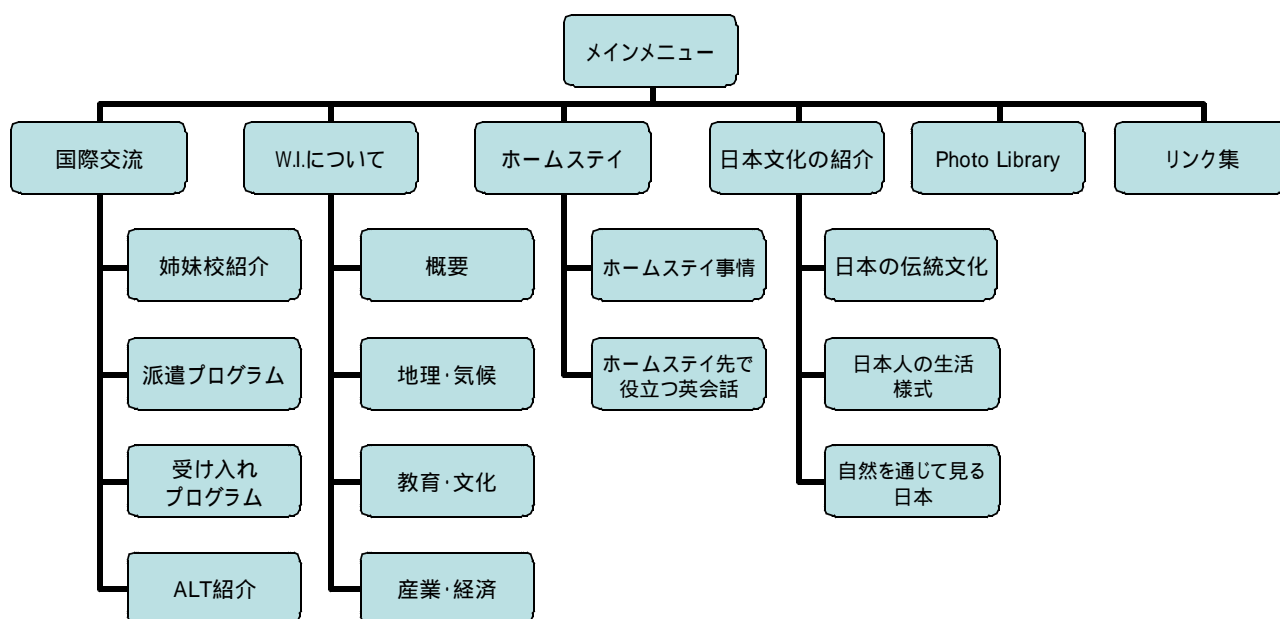
#### ウ 英語のコミュニケーション能力を伸ばす工夫

「ホームステイ先で役立つ英会話」のページ(第1回～第8回)を作成し、学校以外でもいろいろな場面で、自分の意見や考えを自信を持って話せるようになるための支援となるようにする。英語に対して苦手意識を持っている生徒が多いので、動画や静止画を多く取り入れ、楽しんで学習できるように配慮する。また、各英文にコンピュータの音声機能を使い、リスニングの練習ができるようにした。各生徒の英語力に合わせて何度でも練習できるようにする。

### 2 教材の構成

本資料集は、図1のとおりである。そして、操作も簡単なWeb形式を利用して作成した。

図1 資料集の構成図



### 3 教材の内容

#### (1) メインメニュー

このページが学習のスタート画面となる。六つの内容(国際交流、W.I.について、ホームステイ、日本文化の紹介、Photo Library、リンク集)が選択できるようにした(図2)。このページからそれぞれ目的のページへと進む。また、それぞれのページから戻ってくるのもすべてこのページとなっている。本校の国際科の生徒は女子が多いということもあり、明るく可愛らしい雰囲気でのデザインとなるようにし、資料集に対する抵抗感が少しでも減るようにした。

#### (2) 国際交流

このページでは、本校の姉妹校交流プログラムを紹介する四つの内容(姉妹校紹介、派遣プログラム、受け入れプログラム、ALT 紹介)が選択できるようにした(図3)。「姉妹校紹介」、「派遣プログラム」では、フランクリン高校滞在中に撮影した静止画を載せたり、今までの報告書を参考にしたりして、より見やすく分かりやすいようにした。また、フランクリン高校のWebページへのリンクを設定することによって、姉妹校の理解を深められるようにした。「受け入れプログラム」のページでは、本校の受け入れプログラムの概要説明を簡潔に載せ、「ALT 紹介」のページでは、本校のアメリカ出身のALT の協力によって、アメリカでの学生生活や本校の生徒の印象などを載せた。

#### (3) W.I. について

このページでは、あらかじめ生徒に知って欲しいW.I.州に関する基本的な事項を、四つの内容(概要、地理・気候、教育・文化、産業・経済)が選択できるようにした(図4)。どのページも、あえて専門的な内容は扱わず、ごく常識的な事柄を広く浅く扱うことに留め、詳細は、生徒がリンク集を使って積極的に調べられるようにした。

#### (4) ホームステイ

このページでは、二つの内容(ホームステイ事情、ホームステイ先で役立つ英会話)が選択できるようにした(図5)。ホームステイ事情では、ホームステイに参加した生徒の感想、意見をもとに、アメリカのホームステイ事情について紹介する。生徒の持つホームステイへの不安、素朴な質問を少しでも解決できるよう、生徒の意見を多く取り入れるようにした。

ホームステイに役立つ英会話では、出発時に空

図2 メインメニュー

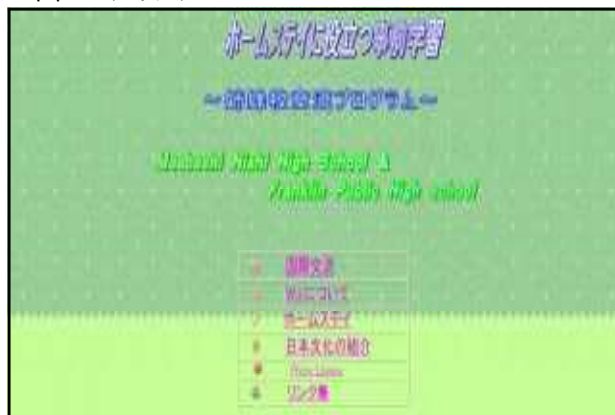


図3 国際交流



図4 W.I.について



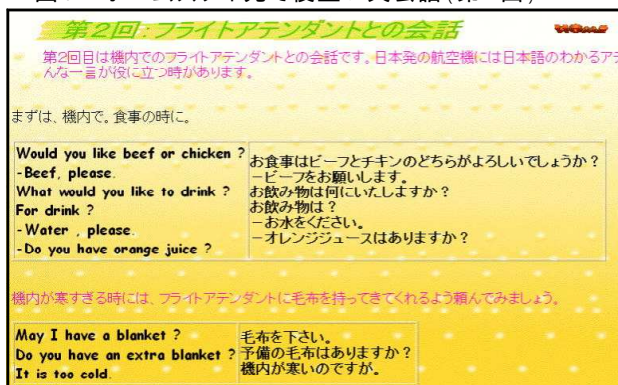
図5 ホームステイ





港や機内で必要となる会話から、現地に到着してホストファミリーと初めて会う時、ちょっとした一言が見つからない時など、場面別の対話形式として、基本的な英会話を8項目に分けて設定した(図6)。それぞれのページの画面下側にあるボタンをクリックすると、音声再生され、生徒は何度でも繰り返し英文を聞くことができる。また、体験談のページでは、ホームステイを通して学んだこと、感動したことなど、様々なエピソードを写真と一緒に掲載した。

図6 ホームステイ先で役立つ英会話(第2回)



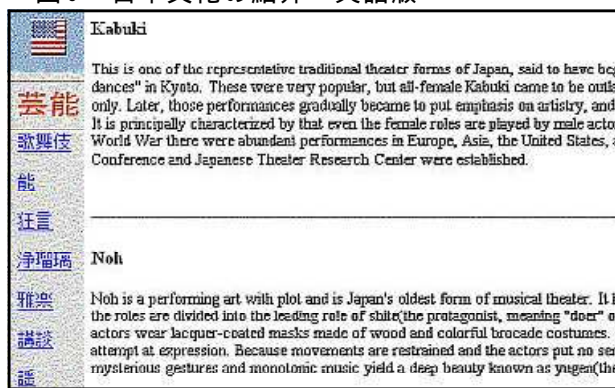
(5) 日本文化の紹介

このページでは、「日本の伝統文化」と「日本人の生活様式」、「自然を通じて見る日本」の三つの内容とした(図7)。自国の文化や習慣について理解を深めることは、自分が物事を判断する際の価値基準を身に付ける上で重要である。自分の基準が明確になってこそ、異なった文化に出会った際、両者の違いや特色、それぞれの良さを理解することができるのである。そこで、日本の生活文化(衣・食・住)や一年間の行事等を日本語版と英語版で紹介する(図8)。

図7 日本文化の紹介



図8 日本文化の紹介 英語版



(6) Photo Library

ホームステイ終了後観光で滞在したニューヨークの風景や観光名所等の静止画を使い、現地での様子を見られるようにした(図9)。

図9 ニューヨーク市内観光



(7) リンク集

生徒が積極的に調べ学習が進められるよう、アメリカ合衆国の歴史や文化、観光案内、現地情報など関連サイト一覧が表示されるページを設けた。各生徒の興味・関心に応じて調べられるようになっている。

実践の結果と考察

1 授業実践

(1) 実践計画

本校1・3年生国際科(それぞれ20名)の計40名を対象として、CAI教室を使用し、平成17年11月2日(水)第2校時、第3校時、英語の授業において以下の内容で検証授業を行った。

(2) 本時の目標

本資料集『ホームステイに役立つ事前学習のための資料集』の使い方を知る。

異文化を調べ、ホームステイに必要な情報を集める。

### (3) 本時の展開

時間	学習活動	学習への支援、および留意点	評価項目
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーバから本資料集をコピーする。</li> <li>・本時の学習目標を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材提示モニターを用いコンピュータの操作について説明する。</li> <li>・本資料集の作成意図および本時の目標を説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を理解し、異文化理解の動機付けとなったか。</li> </ul>
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ合衆国の文化や習慣について理解を深める。</li> <li>・姉妹校について調べる。</li> <li>・ホームステイに必要な情報を収集する。</li> <li>・調べた内容をワークシートに記録する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日米の文化や習慣を比較しながら共通点や相違点を見つけ出すことを助言する。</li> <li>・今までの体験談を紹介し、ホームステイをする際の心得、重要事項をまとめさせる。</li> <li>・机間巡視によりコンピュータのエラーなどのトラブルが発生していないか確認し、質問に答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な調べ学習ができたか。</li> <li>・操作方法が理解できたか。</li> <li>・積極的にワークシート作成に取り組んでいたか。</li> </ul>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を発表する。</li> <li>・ワークシートを提出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本資料集についての率直な感想や意見を述べたりすることができる雰囲気を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームステイ事前学習の意義と、異文化理解への関心が高まったか。</li> </ul>

## 2 結果と考察

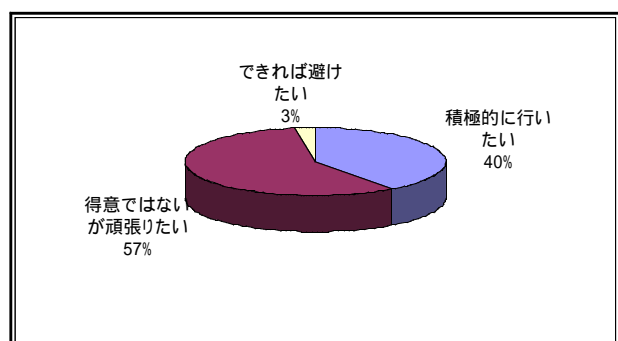
授業実践前と終了時に対象生徒40名に次のようなアンケートを実施し、その回答結果と授業中の様子により、本教材の有効性について検証した。

### ア 実践前アンケートより

ホームステイに関する質問として、「あなたは姉妹校交流プログラムについて興味・関心がありますか」と尋ねたところ、「大いにある」、「ある」という回答が70%であった。姉妹校のあるアメリカ合衆国については、9割以上の生徒が「興味ある」と答えた。また、「英語を使ったコミュニケーションについてどう思いますか」という問いについては、「積極的に行いたい」という回答が40%、「得意ではないが頑張りたい」が57%、「できれば避けたい」が3%であった(図10)。

英語に対して苦手意識を持っているものの前向きな姿勢を示している。

図10 英語を使ったコミュニケーションについて



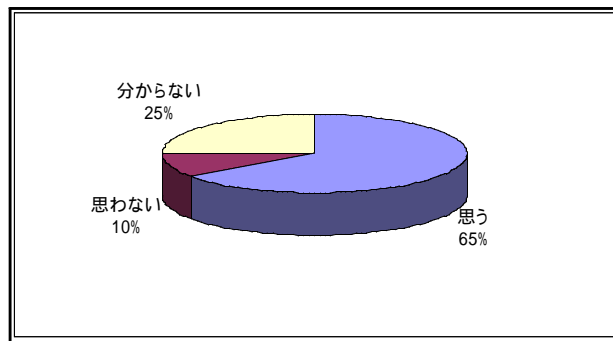
「英語を使ったコミュニケーションで特に不安なことは」という問い(複数可)については、「聞くこと」「話すこと」が一番多く、60%であった。

以上の結果から、多くの生徒が姉妹校交流プログラムに興味・関心を示しており、今後国際交流を体験したい、英語を使用してコミュニケーションを図りたいという意志があることを確認でき、本資料集活用の動機付けとなった。

### イ 終了時アンケートと授業中の様子より

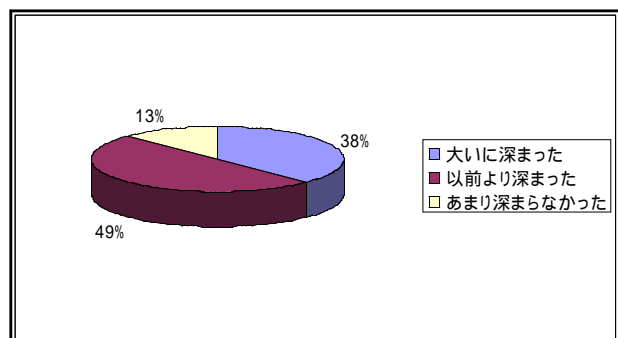
授業終了時に行ったアンケートへの回答は次のとおりであった。「この教材はホームステイの事前学習に役立つと思うか」という問いに対し、「思う」65%、「思わない」10%、「分からない」6%であった(図11)。本資料集を使用しての感想は、「いろいろなことを知ることができて楽しかった」「アメリカ合衆国にもコンピュータにも興味を持てた」「姉妹校についてもっと勉強したい」

図11 ホームステイの事前学習に役立つと思うか



「画像がたくさんあるから興味が沸いた」「海外のことが身近に感じられた」「国際交流などの知識が深まった」などが挙げられた。これらの結果から、本資料集を活用し、積極的に学習したことにより、生徒一人一人が外国に対する興味を持ち、異文化理解が深まったと考えられる（図12）。

図12 海外生活や日本の文化について



また、授業中における生徒の様子を見ると、50分間飽きることなく集中して取り組み、各自が真剣にワークシートを完成させていた（図13）。「ホームステイ先で役立つ英会話」では音声が出るので、音声の後に発話してみる生徒や、隣の生徒に英語で話しかける姿も見受けられ、楽しみながら積極的に自分も英語で話そうとする姿が見られた。

図13 授業中の生徒の様子



生徒のアンケートへの回答結果や授業の様子などから検証すると、授業における本資料集の活用は、ホームステイの事前学習に対する生徒の興味・関心を高める効果があったと言える。音声機能や動画の挿入などの工夫は、英語が苦手な生徒でも興味を損なわずに、積極的な英語でのコミュニケーション活動をしようという意欲を引き出すのに有効であったと考えられる。

## 研究のまとめと今後の課題

本研究により、生徒の姉妹校交流や異文化理解に対する関心・意欲をこれまで以上に高めることができたのは大きな成果であった。生徒一人一人が、自分のペースで興味に合わせて取り組めることにより、受け身的な学習ではなく、自主的に学ぼうとする姿勢が見られたり、日ごろから英語に対して苦手意識を持った生徒でも、画像や動画、音声機能を取り入れることで理解できた喜びや、英語を学習したという達成感を味わうことができた。

また、コミュニケーションを図る上で大切である、相手の背景となる文化や社会、歴史的背景の学習も、ポイントを絞って概要のみを掲載したことで飽きることなく学習することができ、異文化の理解を深めることができた。

今後の課題としては、以下の2点が挙げられる。

興味を持って取り組めるように、さらにコンテンツを増やすことによってこの資料集の充実を図る。

資料集の活用時間を増やすなど授業の工夫・改善をしていく。

## 参考・引用文献

- ・研究報告書 第203集 センター出版(2002)
- ・細井 忠俊/バーウィック 妙子 著 『ホームステイ&留学のための英会話』 株式会社アルク(1999)
- ・杉浦 洋一 著 『日本文化を英語で紹介する本』 ナツメ社(1994)

(担当指導主事 根岸 卓)